

赤穂・城西地区 歴史文化の視点3

### 3. 旧赤穂上水道

【ストーリー】

赤穂・城西地区の大部分は、千種川河口の三角州にあり、井戸を掘っても塩分を含み飲料水として使用できず、江戸時代になってこの地に城と城下町を築こうとしたとき、大きな問題となった。

上水道の整備は慶長 19(1614)年、池田家の家臣・垂水半左衛門勝重が千種川の上流 7km から水をひく工事を開始。城下町や城への配水は、その2年後の元和 2 (1616)年であった。

取水口から城下町北端までは蓋のない開渠であったが城下町内の北端にある百々呂屋裏大枡以南は暗渠となった。昭和 50 (1975) 年代の下水道工事前の総合調査が実施され、一部保存ルートが設定されるとともにモニュメント等が整備された。

「各戸給水」を成し遂げた旧赤穂上水道は、日本三大水道の一つといわれ、現在もその名残を留めている。

